

# ケーススタディ地区での検討

---

# ケーススタディ地区での検討

- 「（仮称）多様なニーズに応える道路の再編ガイドライン」の作成にあたり、既存の資料等で収集できない情報については、ケーススタディを実施し、知見を得る。
- 具体的には、道路の再編の考え方が異なるケーススタディ地区をそれぞれ選定し、地域での機能分担や道路空間の柔軟な使い分け方、合意形成手法や評価方法等について検証していく。

ケーススタディ地区公募（1月25日～2月26日）

ケーススタディ地区決定（4月7日）

## ケーススタディ地区を対象とする調査検討

### ケーススタディ地区公募要領【目次案】

- 目的
- **支援内容**
- 募集要件
- 申請者の要件
- 応募方法
- ケーススタディ地区の選定方法
- 今後のスケジュール

### 【支援内容】

- ケーススタディ地区ごとに既存の協議会等の体制と連携して、多様なニーズを踏まえた道路空間の再編の実現に向けた調査・検討を実施する。
- 必要に応じて有識者等による助言等を行う。

#### <調査・検討項目>

- ① 道路ごとに必要な機能分担及びその配置の考え方について
- ② 道路空間を柔軟に使い分ける考え方と構造、運用の考え方について
- ③ 関係者との合意形成の進め方

### 主な調査内容

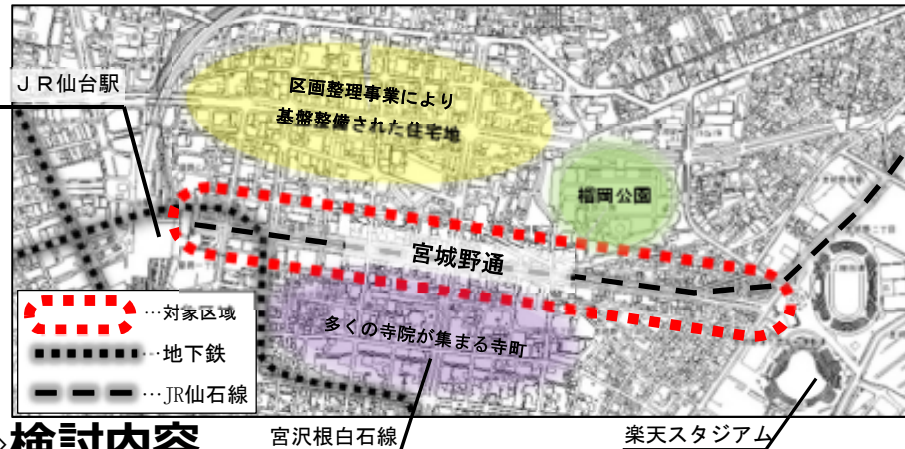
- 道路ごとに必要な機能分担及びその配置の考え方について
- 道路空間を柔軟に使い分ける考え方と構造、運用の考え方について
- 関係者との合意形成の進め方

# ケーススタディ地区での検討

	事業概要	対象路線	申請団体
①	仙台市では、JR仙台駅から楽天スタジアムまでの宮城野通において、ほこみちの活用によるキッチンカーの出店、小型モビリティやループ型バスなどの導入を検討	・宮城野通	仙台市 都市整備局 市街地整備部 都心まちづくり課
②	さいたま市の大宮駅西口において、歩行者優先の空間創出を目指した道路再編を検討	・大宮駅西口の駅前通り	さいたま市 大宮駅西口まちづくり事務所 国土交通省 大宮国道事務所
③	千代田区では、スマートシティ化を推進し、エリアの創造性・快適性・効率性の向上・街のリ・デザインを目指し、新たなモビリティ等の普及に合わせた道路空間の再編等を検討	・東京都千代田区大手町、丸の内、有楽町地区の道路	千代田区 環境まちづくり部 地域まちづくり課
④	三重県では、県都の玄関口である駅前通りに、人中心の賑わいを創出するため、車線数減少による歩道拡幅やほこみち等の取組を検討	・津駅前の県道津停車場線	三重県 県土整備部道路企画課
⑤	福山市では、三之丸町周辺エリアにおいて、拠点間をつなぐ道路空間の賑わい創出の取組などを検討	・市道福山駅西町線の一部	福山市 福山駅周辺再生推進課

# ケーススタディ地区①【宮城県仙台市】

## ◇位置図（対象路線、箇所）



## ◇検討内容

広幅員の道路空間をフル活用して、新たな利活用機能を導入（キッチンカー、新モビリティの走行空間・ポートの設置等）

### ①日常的な賑わい創出（多様なニーズへの対応）

宮城野通の歩道等においては、既存の道路構成を活かした日常的な賑わいを創出するため、歩行者利便増進道路制度などの活用を見据えながらキッチンカーの出店、パークレットの導入などによる空間活用が日常的に可能となるような仕組みづくりを検討する。

### ②移動手段の多様化（MaaSの活用）

宮城野通（JR仙台駅から楽天スタジアムまでの約1.5kmの区間）について、地域住民の日常の移動手段や、各施設、駐車場、公園等を面的につなぎ、エリア内の回遊を促すような移動手段を多様化するため、新技術を活用した小型モビリティやループ型バスなどの導入について検討する。

## ◇検討体制

R2年度の取り組みをふまえ、仙台駅東まちづくり協議会が主体となり、仙台市の関係部局や民間事業者、管理者等と連携しながら検討や実験的な取り組みを行う。



宮城野通の現況

総幅員 50m



JR仙台駅東口駅前広場付近の道路幅員構成



イメージ図

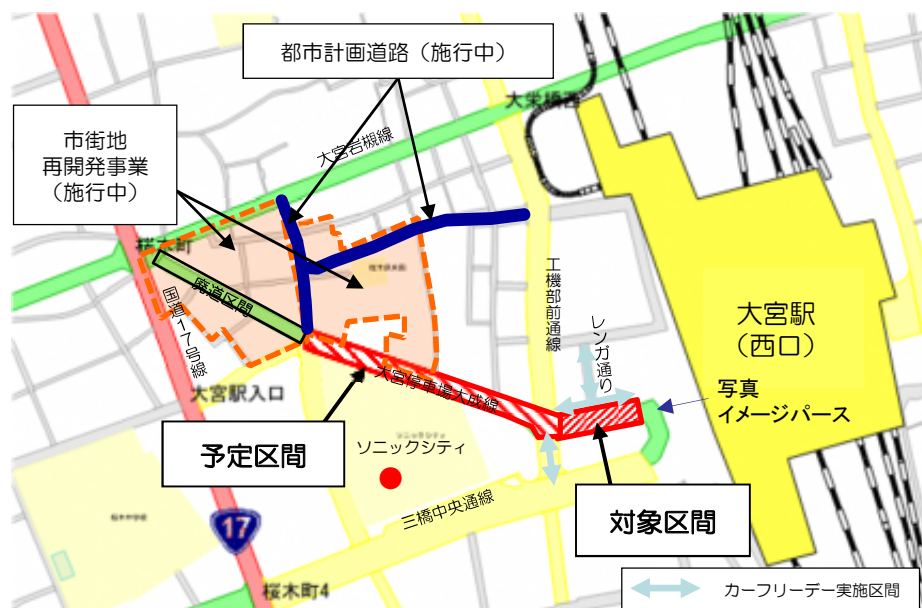
出典：仙台駅東まちづくり計画

## ◇令和3年度以降の検討スケジュール（案）

検討内容		R3年度			
		4～6月	7～9月	10月～12月	1月～3月
日常的な賑わい創出	宮城野通の空間利活用の実施（キッチンカー等）	事前協議・準備	社会実験		制度活用準備
	調査・分析	利用者・出店者ニーズ調査		結果分析	
移動手段の多様化	新技術を活用した移動サービスの実現（小型モビリティ等）	事前協議・準備		社会実験	次年度準備
	調査・分析		ニーズ調査	結果分析	

# ケーススタディ地区②【さいたま市大宮区】

## ◇位置図



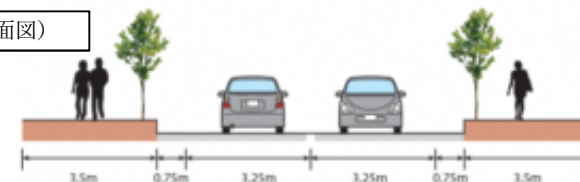
## 写真



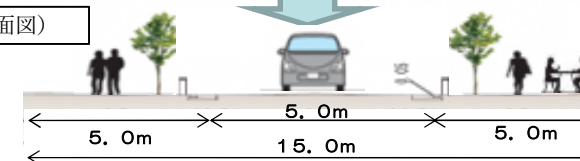
## イメージパース



現況 (断面図)



計画 (断面図)



## ◇検討内容

- ・ 快適で賑わいのある歩行空間を創出するため、対象区間において歩車道間の段差を減らし、道路の全幅を変えずに歩道に幅員を再配分する再整備を検討
- ・ 沿道等関係者における歩行者利便増進道路の検討 (ワークショップなど)
- ・ 快適で賑わいのある歩行空間とするための周辺の道路整備を検討

## ◇検討体制

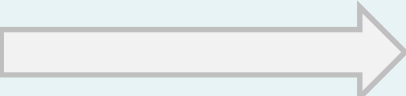
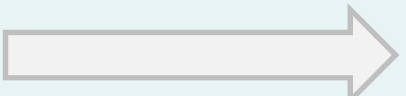
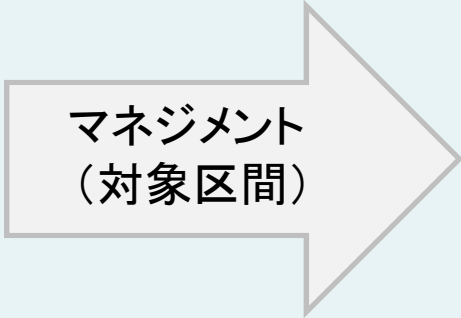
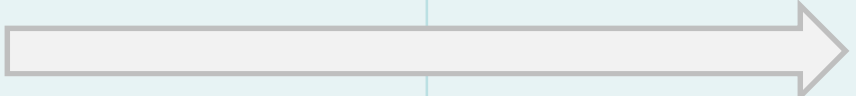

### ワークショップの開催

平成30年1月から対象区間の沿道関係者を対象とした計6回のワークショップを開催  
引き続き、対象者とともにワークショップ等を実施していく

(対象者：沿道権利者、テナント、西口中央エリア商店会、大宮駅西口商店街連絡協議会)

## ケーススタディ地区②【さいたま市】

### ◇令和3年度以降の検討スケジュール

	令和3年度	令和4年度	令和5年度以降
さいたま市	 道路詳細設計 (対象区間)	 道路整備工事 (対象区間)	 マネジメント (対象区間)
	 道路空間再編に向けたワークショップ (対象区間)		
大宮国道事務所	 周辺道路整備検討		

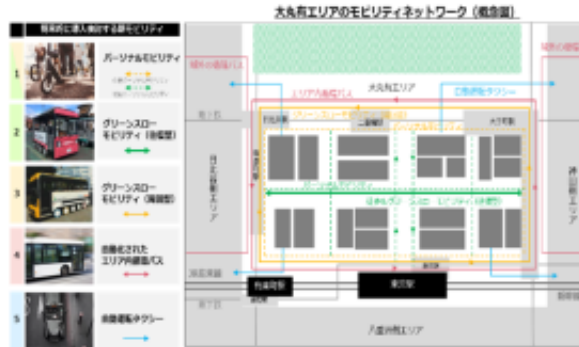
滞在できる道路空間の創出へ

# ケーススタディ地区③【千代田区】

## ◇位置図（対象路線、箇所）

大手町・丸の内・有楽町地区（大丸有地区）

東京駅と皇居の間に位置する経済中心地  
 区域面積：約120ha，立地企業数：約4300事業所



## ◇検討内容

『smart&walkable』をコンセプトとした街路特性に応じた都市のり・デザイン像を2020年3月に「大丸有スマートシティビジョン」として公表。

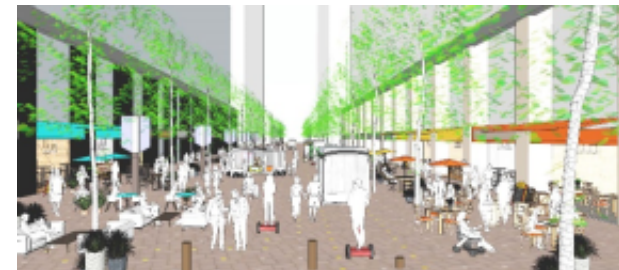
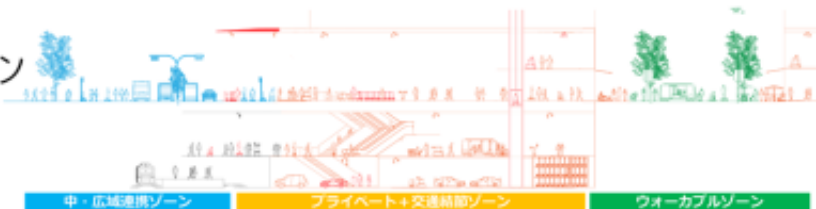
これらを実現する上で

- ①「モビリティ」「道路に付帯させる装置（センサー等）」の導入に係る現状把握・課題の分析
  - ②導入に係る法例・規制緩和等の社会的状況把握
  - ③各種ステークホルダーとの合意形成（合意形成に向けた検討体制の構築）
- が必要であり、これらを踏まえロードマップを策定の上、実証実験、シミュレーション等も実施しながら、官民連携の下、社会受容性等の検証を行いつつ、実現に向けたアクションを実行する。

## ◇検討体制

当地区のエリアマネジメント団体と共に公民連携で様々なまちづくり施策・検討会との連携を図っていく。街路特性及び関連ステークホルダーの種別等を勘案し、り・デザイン像に基づきゾーン分類。各ゾーン毎で関係者を整理しつつ、検討を推進。

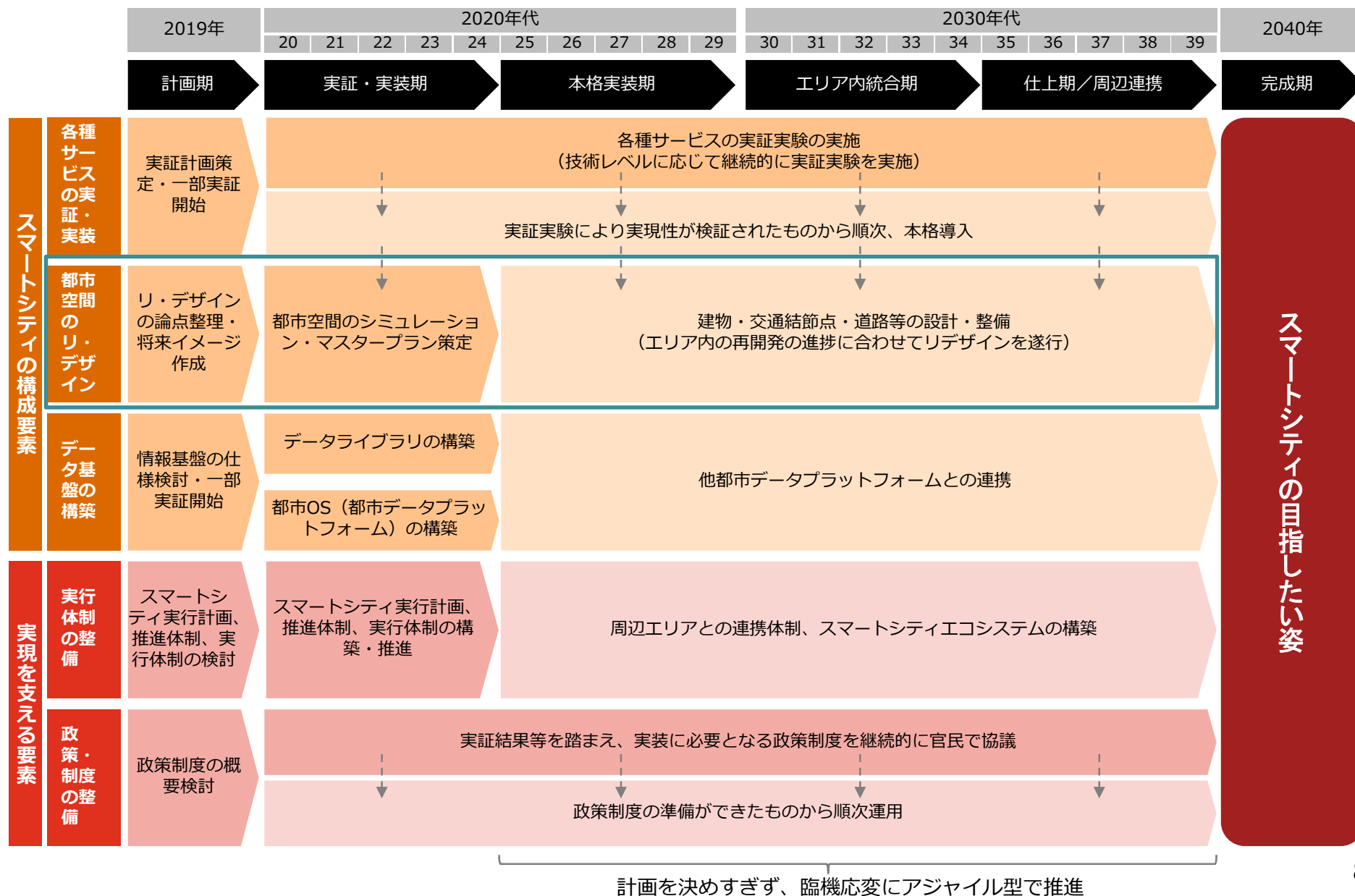
- A：中・広域連携ゾーン、
- B：プライベート+交通結節ゾーン
- C：ウォーカブルゾーン





# ケーススタディ地区③【千代田区】

## ◇令和3年度以降の検討スケジュール



# ケーススタディ地区④【三重県】

## ◇位置図（対象路線、箇所）



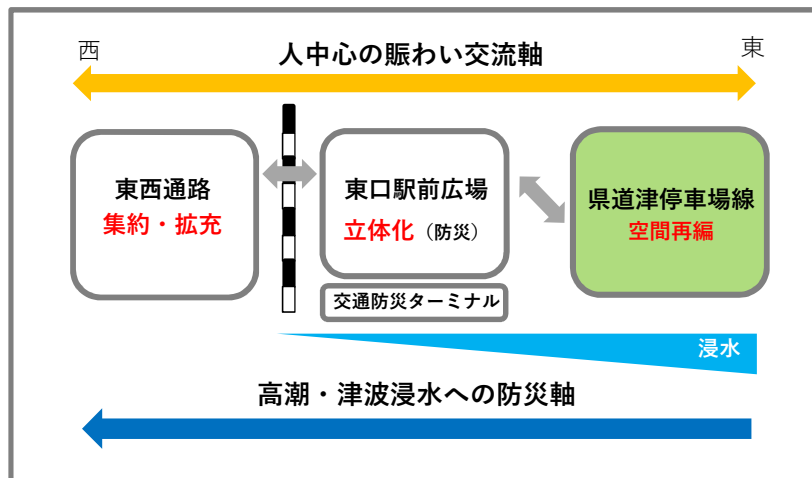
## ◇検討内容

三重県、津市は、県道津停車場線を含めた「津駅周辺空間の基本的な方向性」を令和3年3月に公表

### 基本方針

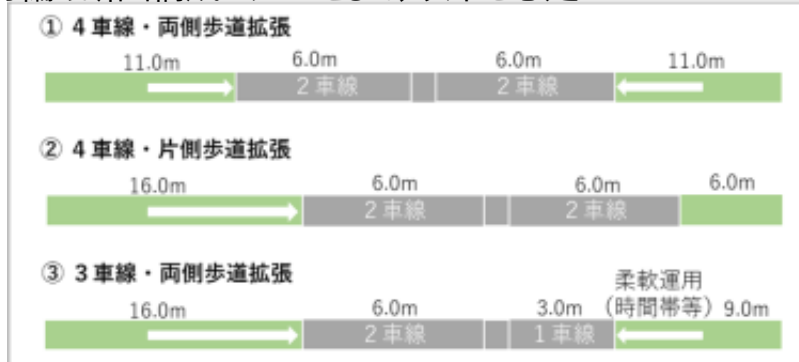
地方都市が主役のポストコロナ時代において、**みえ県都の顔となり、地域の活力を引き出し、災害にも強い空間へと再生**

〈新たな道路空間の機能の概念図〉



### 県道津停車場線の空間再編

具体的な方策については、今後検討することとしているが、再編の断面構成パターンとして、以下を想定



### 検討を進めるうえでの着眼点

- 自動車交通特性は駅方向が卓越
- 沿道等の立地は駅方向側に飲食店やホテル等が多く立地
- 拡張空間はグリーンを協働で創出
- 若い世代が集いやすく、民間のスタートアップがしやすい環境づくり
- ICTを活用した東西連携や災害時の避難誘導の情報提供

## ケーススタディ地区④【三重県】

### ◇検討体制

#### 現在

「津駅周辺道路空間検討会」

設置：令和2年7月31日

構成メンバー：三重県県土整備部長、津市都市計画部長

オブザーバー：中部地方整備局三重河川国道事務所長

開催経緯：公開で計4回開催

県民からの意見募集（R3.2.26～3.11）

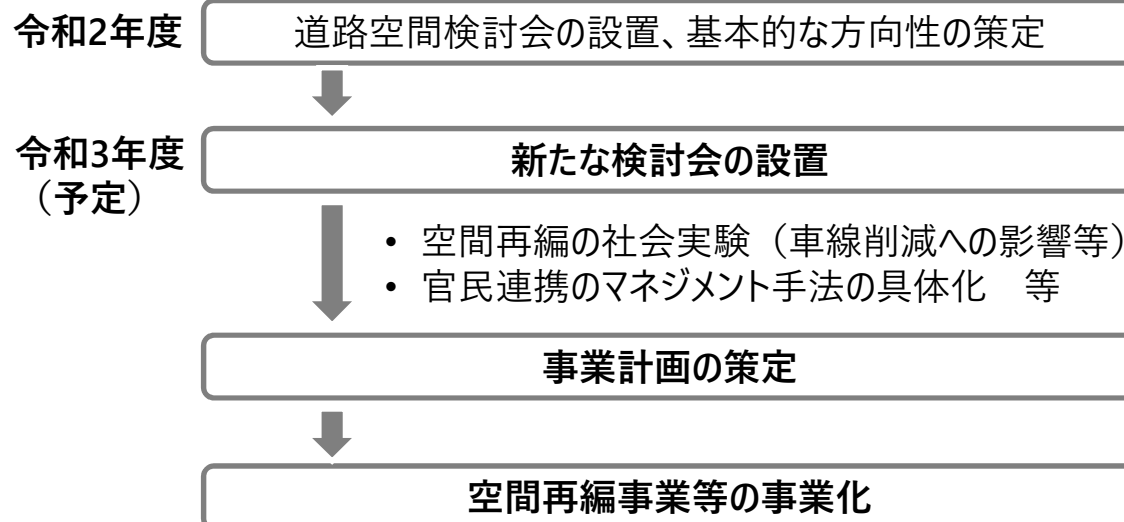
民間からの提案募集（R3.3.30～6.30）

#### 令和3年度～

有識者等を含めた新たな検討会に拡充

- 道路空間再編と交通拠点の機能強化を一体として検討するため、特に交通事業者との連携が重要
- コロナ禍にあって、民間の投資意欲が低下しているため、官民の財源の役割分担に関わる検討への影響が懸念される。

### ◇令和3年度以降の検討スケジュール



# ケーススタディ地区⑤【福山市】

## ◇位置図（対象路線、箇所）



## ◇検討内容

### 【市道福山駅西町線の一部区間での実証実験】

- ①ウォークブルエリア内の道路空間の活用における地元との合意形成の進め方の検討
- ②周辺の商業施設や公共空間を活用したにぎわい創出を担う体制づくり。
- ③実験の結果を基に、周辺地域との実現に向けた協議の進め方の検討
- ④事業者アンケートや交通量、流動客数などによる評価の実施

## ◇検討体制

### 【福山駅前デザイン会議】

構成員メンバー

・座長

清水義次（株アフタヌーンソサエティ代表取締役）

・福山駅前再生アドバイザー

岡崎正信（オガールプラザ株代表取締役），西村浩（株ワークヴィジョンズ代表取締役），山田高広（株三河家守舎代表取締役）

・関係機関

広島県福山東警察署，（株）築切家守舎（都市再生推進法人） など

## ◇現況写真



## ◇実証実験の道路空間のイメージ



## ◇令和3年度以降の検討スケジュール

	2021年度(令和3年度)																																															
	4月				5月				6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4				
実証実験の内容の検討	■	■	■	■	■	■	■	■																																								
デザイン会議での検討																																																
地元調整	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■																												
実証実験																					■	■																										
実験後の評価																																																